

研修費（ 創世下関 ）出張報告書

令和6年4月30日

氏 名 星出 恒夫	研修会等題名 バリアフリー展
期 間 令和6年4月18日から 令和6年4月19日まで	研修会等会場（市区町村名） 大阪市住之江区（インテックス大阪）

研修会概要・意見等

●災害対策ゾーンにおいては、車いすなどの移動機器、交通バリアフリー、リフト、昇降機などの展示、介護ロボットゾーンにおいては、介護ロボット、介護ベッド、介護トイレ、入浴設備などの展示、健康増進・介護予防ゾーンにおいては、コミュニケーション機器、リハビリ機器などの展示を見学し、それぞれ、疑問に思うところについて質問をした。全体的な感想としては、技術がかなり進歩しており、このような機器等をそれぞれの事業所がある程度使用方法を把握し、合理的に導入していけば介護の負担が軽減すると思われるが、機器等の使用方法について、それぞれの事業者が把握できるのか疑問なので、プラットフォーム等の相談できるところが欠かせないのではないかと感じた。

○展示会場で開催されていたセミナーに参加したので概要を報告

・【介護現場における生産性向上】について 厚生労働省 老健局高齢者支援課
介護業務効率化・生産性向上推進室 室長補佐 XXXXXXXXXX

介護現場における生産性向上とは、介護ロボット等のテクノロジーを活用し、業務の改善や効率化等を進めることにより、職員の業務負担の軽減を図ると共に、業務の

改善や効率化により生み出した時間を直接的な介護ケアの業務に充て、利用者と職員が接する時間を増やすなど、介護サービスの質の向上にも繋げていくことである。

介護現場が抱える現状と課題としては、効率化が上昇する一方、生産年齢人口は減少する（労働需要は高まり、労働供給が低下する）そのような状況の中で、職員の負担を減らしつつ、質の高いサービスを提供し続けるための工夫が必要である。

このような人材不足の中で、介護の質を確保し、向上させ、将来にわたって継続的に介護サービスを提供するための手段が「生産性向上」である。

生産性向上に関する直近の動向としては ① 改正介護保険法において、介護情報基盤を構築すること、及び都道府県に対し、介護サービスを提供する事業所や施設の生産性向上に資する取組みが促進されるように努める旨の規定がされたこと。 ②

「デジタル行財政改革会議」において、介護現場でのデジタル化推進について、言及され、重要な施策として積極的な対応を求められていること。 ③ 令和5年度補正予算において、「介護サービス事業者の生産性向上や協働化等を通じた職場環境改善事業」等の支援策が盛り込まれたこと。 ④ 令和6年度介護報酬改定で、良質なサービスの提供に向けた働きやすい職場づくり、生産性向上等を通じた働きやすい職場環境づくりに繋げるための加算の創設等を実施すること。

・【災害時に備えた食生活管理】《ローリングストック法を考える》

公益社団法人大阪府栄養士会管理栄養士 XXXXXXXXXX

はじめに「東日本大震災の年齢別死者数」や各地区の地震や豪雨災害のデータ、《災害時要支援者》の説明があった。

災害時の栄養問題としては、発災の季節や場所によって、不足する栄養素が異なり、避難所に最初に届く物がおにぎりやカップ麺で炭水化物に偏りやすく、たんぱく質やビタミンやミネラルなどが不足しやすくなる。→特に摂取エネルギーや栄養素の摂取不足から「低栄養に注意」が必要になる。→ビタミンが不足すると口内炎が生じるので注意が必要。

災害や紛争など非常事態で通常の食料の供給が困難な時に備えるための食糧として、「非常用食品」「災害食」を備蓄しておくことがいざという時に役に立つ。

「ローリングストック」とは、普段の食品を少し多めに買い置きしておき、賞味期限を考えて古いものから消費し、消費した分を買い足すことで、常に一定量の食品が家庭で備蓄されている状態を保つための方法である。

ポイントとしては費用、時間の面で、普段の買い物の範囲でできる 使いやすい食品を買い足す。常備食品を使った料理を作ること。

なかなか、災害食を備えている方は少ないが、常備食品は比較的備えており、例えばお米や調味料、他にラーメン、袋ラーメンよりもカップ麺の方がお湯だけで出来るので災害時は便利と言われている。さらに言うと、麺と調味料が別になっていると、調味料を少し減らすことによって減塩処置が出来るということ。

缶詰も、有効であるが、できれば缶切りがなくても開けられるものがより好ましい。野菜ジュースも 1 リットルのものでなく、飲み切りタイプのものが良い。

・【福祉用具・介護ロボットの係る取り組み、最新情報】

公益財団法人テクノエイド協会 企画部 部長 

～福祉用具等の最新動向とニーズを踏まえた開発・普及を考えよう～について、
主な内容は

- ・ 少子高齢化の現状と課題、今後の展開
- ・ 福祉用具・介護ロボットに関する施策の動向
- ・ テクノエイド協会の取り組み《高齢・障害 一部事業紹介》
- ・ 福祉用具等の効果的な利用と開発のポイント

現状と課題について、高齢者においては、要介護者の増加、認知症高齢者の増加、高齢者世帯や高齢者の独居が増加している。

障害者においては、高齢化、ニーズの多様化・複雑化、活動や参加に対する理解、支援の拡充、福祉用具等が利用可能なインフラの整備など。

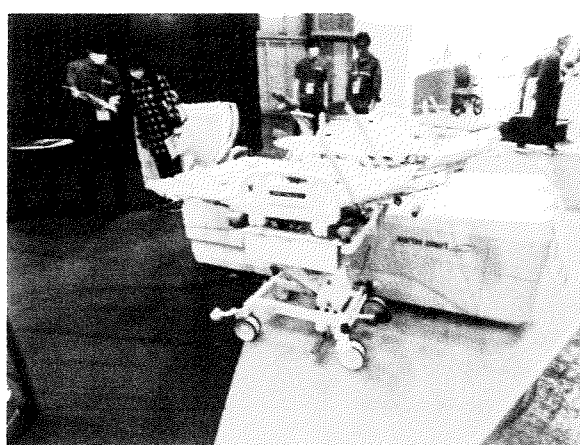
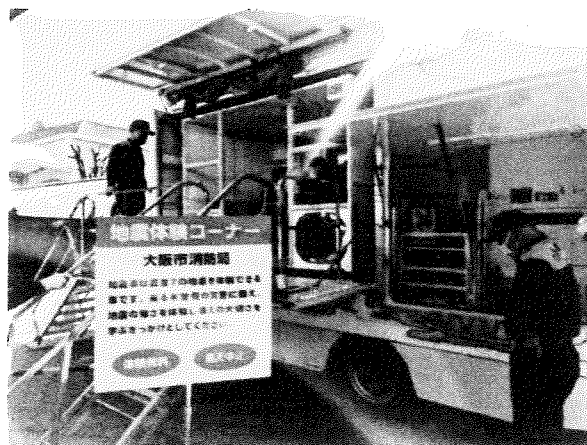
介護保険の福祉用具は、要介護者等の日常生活の便宜を図るための用具及び要介護者等の機能訓練のための用具であって、居宅要介護者等の日常生活の自立を助けるためのものを、保険給付の対象としている。

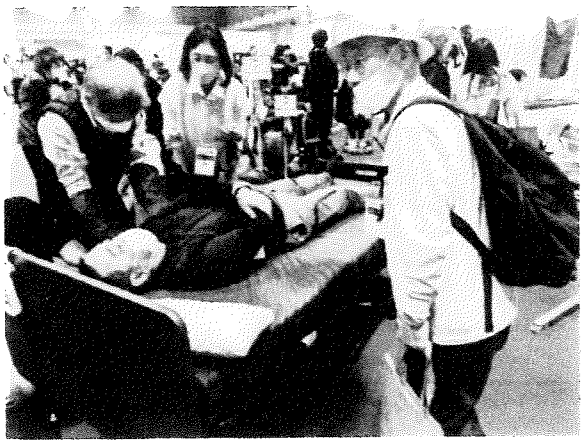
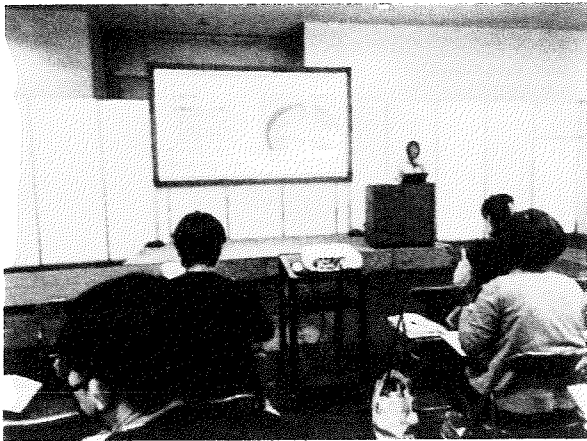
介護ロボットをどういった目的から活用するのか。重点分野としては ①移乗支援 ②移動支援 ③排泄支援 ④見守り支援 ⑤入浴支援 ⑥介護業務支援である。

福祉用具は、利用が目的ではなく、目的を達成する一つ的手段としており、一方、近年は意識化・目的化することも考慮し、開発と利用を検討しなければならない。

●バリアフリー展

2024 年 4 月 18 日、19 日





バリアフリー展

開催概要

名称 バリアフリー2024(第30回 高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展)

会期 2024年4月17日(水)～19日(金) 10:00～17:00

会場 インテックス大阪(〒559-0034 大阪市住之江区南港北 1-5-102)

入場料 無料(入場登録制)

主催 社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会・テレビ大阪・テレビ大阪エクスプロ

共催 一般財団法人 大阪府地域福祉推進財団

後援 厚生労働省、経済産業省、総務省、国土交通省、大阪府、大阪市、堺市、大阪商工会議所、日本貿易振興機構(ジェトロ)大阪本部、(社福)朝日新聞厚生文化事業団、(社福)産経新聞厚生文化事業団、(公財)毎日新聞大阪社会事業団、(社福)読売光と愛の事業団大阪支部、(社福)全国社会福祉協議会、(社福)大阪市社会福祉協議会、(社福)堺市社会福祉協議会、(社福)滋賀県社会福祉協議会、(社福)京都府社会福祉協議会、(社福)京都市社会福祉協議会、(社福)兵庫県社会福祉協議会、(社福)神戸市社会福祉協議会、(社福)奈良県社会福祉協議会、(社福)和歌山県社会福祉協議会、独立行政法人福祉医療機構、(公社)日本医師会、(一社)大阪府医師会、(公社)日本歯科医師会、(一社)大阪府歯科医師会、(公社)大阪府歯科衛生士会、(一

社)日本病院会、(一社)大阪府病院協会、(一社)大阪府私立病院協会、(一社)日本自動車工業会、アクセシブルデザイン推進協議会、(公財)共用品推進機構、(一社)日本福祉用具供給協会、(一財)保健福祉広報協会、(一社)シルバーサービス振興会、特定非営利活動法人日本アビリティーズ協会、(公財)テクノエイド協会、(公社)日本理学療法士協会、(公社)大阪府理学療法士会、(一社)日本作業療法士協会、(一社)大阪府作業療法士会、(一社)日本ロボット工業会、(公社)関西シルバーサービス協会、(一社)日本福祉用具・生活支援用具協会、(公社)全国老人保健施設協会、(公社)大阪介護老人保健施設協会、(一社)日本言語聴覚士協会、(一社)大阪府言語聴覚士会、(公社)日本介護福祉士会、(公社)大阪介護福祉士会、(公社)日本社会福祉士会、(公社)大阪社会福祉士会、(一社)日本介護支援専門員協会、(公社)大阪介護支援専門員協会、(公社)大阪府栄養士会、(公社)日本脳卒中協会、(公財)大阪観光局、(公社)2025 年日本国際博覧会協会

[順不同]

同時
開催

。 慢性期医療展2024

。

。 在宅医療展2024